

セブン銀行、重要情報CD-Rの管理を ”より安全・効率的”に

ICタグ活用のおしくみをコクヨS&Tと実現

セブン銀行は、「いつでも・どこでも・だれでも・安心して利用できる「みんなのATM」」により、暮らしに密着した金融サービスを提供している。同銀ではICタグ技術を用いたシステムをコクヨS&Tと開発。重要情報の入ったCD-Rの管理を厳格化すると同時に、棚卸し作業の効率化とCD-R収納量の最大化を実現した。

ICタグ技術を活用して重要情報CD-Rを管理

05年施行の個人情報保護法、08年度から上場企業に義務づけられた日本版SOX法。各種法規制の影響を受け、国内企業では個人情報など重要情報の適切な取り扱いが経営上の優先課題となっている。特に金融機関は、金融庁が個人情報の管理態勢にかかわる一斉点検を開始したこともあり、より厳格な管理が求められている。

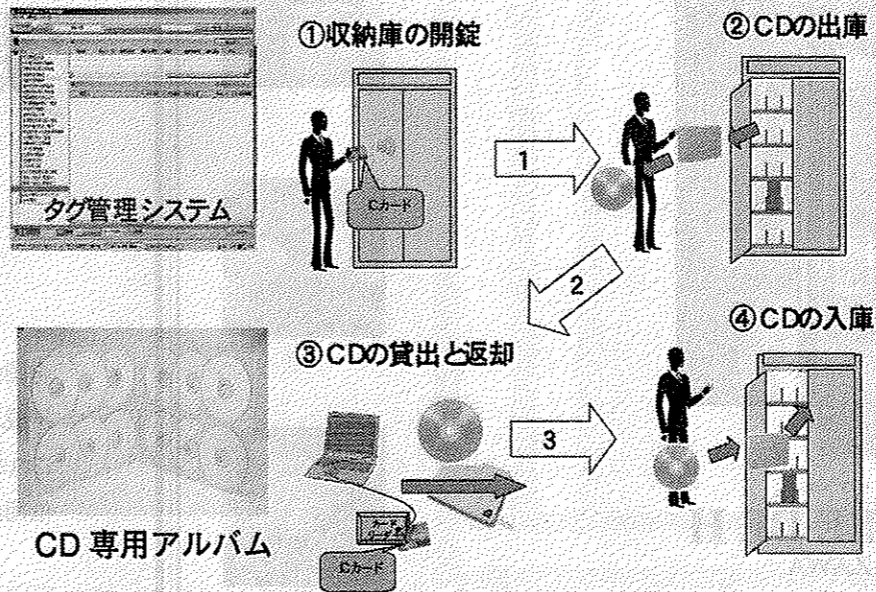
このような背景を踏まえ、セブン銀行は重要情報の新しい管理方法を模索。金融機関の現物書類管理コンサルティングで定評のあるコクヨS&Tと協力して、08年4月から新システムを導入した。このシステムはセブン銀行の事務センター3拠点で保管されている重要情報が入ったCD-R約2000枚を、ICタグを活用して管理するものである。

システム化でミスを軽減 作業履歴もすべて保存

セブン銀行事務部の松下彦部長は、システム導入の理由を次のように語る。「業務遂行上、重要情報CD-Rの社内での貸し出しは毎日のように行われています。さらに管理対象のCD-Rが増加しており、安全性かつ効率性を保った運用を今後も継続するには、新たな管理方法が必要と考えました」。

システム導入前、CD-Rの貸し出し・返却に関するチェックは、紙ベースの台帳を用いて実施していた。手作業のため、台帳チェック漏れなどの人為的なミスを誘発する危険性を抱えていたといえる。今回のシステムでは、CD-R一枚一枚の中心部にリング型のICタグが内蔵されているのが特徴。貸し出し処理を例に、実際の利用手順を見てみよう(図)。

まず、業務担当者はCD-Rが収められた収納庫を開錠する。収納庫は業務担当者のICカードをかざさないと開かないしくみ。また、扉の開



(図) 重要CD-R管理システムの利用手順

閉者と開閉時間はすべてシステム上に記録されている。続けて、パソコンに取り付けられたICリーダーに、業務担当者のICカードとCD-Rをかざす。返却時の処理も同様だ。こうすることで、「いつ・誰に・どのCD-Rを貸し出したのか、そしてどのタイミングで返却されたのか」といった、一連の作業履歴がすべて保存される。問題発生時の原因特定が非常に容易になった。

収納量の最大化とともに棚卸し時間の短縮を実現

もう一つのポイントが、CD-Rを収納する専用のアルバムである。このアルバムは収納量の最大化と、ICタグの読み取りやすさの両方を追求したもの。アルバム内のICタグが互いに電波干渉しないように収納ポケットが取り付けられており、一冊につきCD-R12枚を収納できる。「従来CD-Rを保管していた収納庫では、収納量は1500枚が限度でした。今回、専用のアルバムと収納庫を用

意することで、スペースはほぼ変わらないまま、5040枚のCD-Rを収納することが可能になりました。今後CD-Rが増え続けても余裕を持って対応ができます」と松下部長は語る。

CD-R一枚ごとの在庫チェックも、アルバムに入れたまま行えるので、棚卸し作業が大幅に効率化した。アルバム一冊あたりの読み取り時間は5秒で完了し、収納庫一台あたりのチェックはおおよそ3分です。「いままで一日近くかけて実施していた棚卸し作業が、一時間ほどですむようになりました」と(松下部長)。

また在庫チェック時、本来収納庫にあるべきCD-Rが無い場合は、エラーメッセージがパソコンに表示される。そのため、仮に紛失が発生した場合にもすぐわかる。

今回の案件に携わったコクヨS&T・ドキュメントソリューション事業部の市村元秀氏は、「他社には無いアルバムの作成で、セブン銀行様の安全性と効率性の運用のお手伝いができました」と、感想を述べた。

コクヨS&T株式会社 <http://www.kokuyo-st.co.jp/solution/ims/>

コクヨ文書管理

検索

詳しくは10月8-9日開催のFIT2008にて展示いたします。
お問い合わせは TEL: 03-3474-8631